

エネルギー・ネクスト課題設定・解決演習

▼全体での意見交換の後に、グループワークを行いました(8月3日)



物質・材料からデバイス、システムまで様々な視点からの対話型講義を受け、エネルギーの理工学の考えに基づき、次々世代のエネルギー科学技術・社会インフラについて議論する科目です。AとBとを隔年で実施しており、Aは「エネルギー・ネクスト システム・デバイス特論」の受講を前提としたグループワークによる課題演習、Bは事前学習・エネルギー関連施設の現場訪問・事後学習に

よる訪問型演習としています。2018年度はBを開講しましたので、一部をご紹介します。

8月3日(金)に経済産業省を訪問しました。第5次エネルギー基本計画やSDGsに関する説明・解説を受けたのち、4グループに分かれて密な議論を交わしました。官僚の方々も、将来の生活において想定される課題や解決策としてのエネルギー政策について、安全保障や日本経済への影響なども含めた技術評価をされており、プログラム生はその視点や豊富な知識に刺激を受けていました。また、供給側のみならず、エネルギー消費側の視点からの解決策についての議論も進めてみたい、との学生からの提案もありました。

8月29日(水)にはJXTGエネルギー株式会社の根岸製油所を訪問しました。国内有数の規模を誇る製油所の施設を江澤和彦所長直々にご案内いただき、ダイナミックな石油精製のプロセスを実感しました。この後、川崎製造所の下村啓所長、本学OB・OGの先輩方に

もご参加いただいて、学生による研究発表を行いました。諸先輩方からは質問だけでなく、貴重なコメントやご指摘、課題や解決の方向性にも言及していただき、今後のエネルギー問題を考えるヒントをいただきました。最後は、江澤所長から熱いエールを送っていただきました。

なお、JXTGエネルギー株式会社からは多様なご助力をいただいております。たとえば、毎年度恒例となっている講演会の開催もそのひとつです。7月27日(金)には、JXTGエネルギー株式会社取締役常務執行役員の五十嵐仁一様においていただき、「イノベーションを担う大学人材への期待」をご講演いただきました。昨年度の2回に続く第3回の講義という位置づけで、世界のエネルギー動向から日本のエネルギー政策までお話しいただきました。時間の後半は学生との討論の場として、JXTGエネルギー株式会社中央技術研究所 フェロウの真崎仁詩様、中央技術研究所技術戦略室の中山慶祐様にも議論に参加していただき、研究開発にとどまらず、今後の産学連携の在り方、スタートアップ企業についてなど多岐にわたる話題の議論が展開され、学生たちも積極的に自分の意見をぶつけていました。



▲五十嵐様による講演の様子(7月27日)

▶製油所の概要について説明を受けるプログラム
学生(8月29日)

